

## 後援会だより

### 「目標に向かって」



ひろし  
廣本 拓也  
(文学部)

大学4年間で私が力を注いだことは、部活動の野球です。親元を離れて寮で生活するという不安がありました。そこで自分で洗濯や掃除をし、自立することができ、今ではとても良かったと思います。また多くの人と知り合うことができ、人との繋がりということも学びました。

1年生の春からベンチ入りさせてもらえ、3年生の時には大学日本一も経験

し、とても充実した野球生活を送ることができました。4年生では副将もまかされて、自分以外のことにも目を向けながら野球をし、その大変さも今となってはとても貴重な経験となりました。

勉強の方では4年間しっかり大学に通い、難しいながらも自分なりに頑張り、時には友人に助けってもらったりなどして、充実した4年間を送りました。

就職も決まり、社会人になっても野球を続けることになり、レベルアップする社会人野球でも自分を磨いて、2年後に、自分の目標であるプロ野球選手になれるように日々学びながら目標に向けて頑張っていきたいと思っています。



2010年度の春季リーグ戦

最後に、今、こうして私が大学まで野球が続けられているのは本当に両親のおかげだと感謝しています。

### 「夢叶う日まで頑張れ！」



ひろし  
廣本 克之  
(かつゆき)

大学生活は悔いのない4年間でしたか？

六大学野球という憧れのフィールドに身を置いて過ごした4年間、充実した日々を送ることができたのではと勝手に思っています。小学校2年から始めた野球、14年間夢に向かって努力し、夢を抱き続けたことに父も母も拍手！ 師に恵まれ素晴らしい仲間と出会えた14年間だったと思います。まだ夢半ばですね？ 夢無くして努力無し、努力無くして夢叶わず。夢叶う日まで頑張れ！ 拓也！

### 「責任と仲間」



りつこ  
東谷 祥子  
(経済学部)

私が法政大学で過ごした4年間は大変充実したものであったと思います。まず、一人暮らしという新しいスタートを切り、生活するという普段何気なく過ごしていたことを自分1人でやるのが想像以上に大変で当初苦労したことを覚えています。

月日を経て、徐々に自分の時間ができてきた私は、大学生のイメージの象徴とも言えるサークル、ゼミ、さらにアルバイトを始めました。これらはそれぞれ分野は違いますが、共通して学んだこと、得たことを2つ紹介したいと思います。1つ目は責任です。当初は先輩がい

新宿にて、サークルのコンパ(左下が筆者/2009年3月18日)

て後輩の私は教えてもらうことばかりでしたが、自分が先輩という立場になるにつれ、先輩から受け継いだり、自分自身が学んだり考えたことを後輩へアウトプットするようになりました。そこには当然責任が伴い、上に立つこと、任せられることに対して、自覚を持たなければできないことであつたと思います。私はアルバイトそしてゼミにおいてクルーリーダー、ゼミ長を務めさせていただき、自分の自信と共に勉強になったことが数多くありました。

2つ目は仲間です。大学という特殊な場での出会い、多くの時間を共有し、支え合ってきた仲間は本当に一生の財産だと思ひ、大変感謝しています。

最後になりますが、このような時間を過ごして、今の私があるのは、家族そして仲間の応援があつたからこそだと思ひます。ありがとうございます。

### 「小さな贈りものを」



りつこ  
東谷 慶昭  
(よしあき)

卒業おめでとう。あなたはこれから社会の中でいろいろな場面に巡り会います。その時に「これで良いかな」という所から半歩だけ余計に踏み出して欲しいと願っています。「何をすれば良いのですか」「指示通りにやりました」「給料の分だけ働いています」「良く聞かれる言葉です。またこちらからあいさつをしたのに返さない人もいます。しかしその先の世界には限界があることを知ってほしいのです。少しでも良いのです。「おはよう」「ありがとう」を言い続ける、みんなのためにできることを考えていろいろやってみる。その継続が大きな幸せにつながっていくのです。そのことを理解してほしいと思います。

「感謝」



まつばら けんた  
松原 健太  
(工学部)

大学生活4年間を振り返ると本当にいろいろなことがありました。そしてあつという間に過ぎてしまったと感じます。友人、経験、など多くのものを得て、成長したと思います。

そして、4年間を総じて言えるのは感謝です。すべては書ききれませんが、その一部について書こうと思います。

上京して新しい環境に身を置き、何事もわからずとも不安な毎日でありました。しかし大学でサークルに入り、かけがえの無い友人たちに出会い、とても楽しい毎日になりました。

「大学生活を振り返ると」



おたいら まりこ  
大平 真理子  
(社会学部)

法政を選んだのはアナウンサーという夢を叶えられる大学だと考えたからです。進学後は自主マスコミ講座に所属し、素晴らしい講師陣の下、意識の高い仲間と切磋琢磨しながら試験に向けての準備をしました。しかし、いざ試験が始まると夢に立ちはだかる壁の大きさを改めて痛感しました。試験は倍率が高く、採用人数は一人か二人。不採用が続く、落ち込みました。一番減入ったのは2つの局から同時に不採用通知が届いた日です。その日母と電話で話していたのですが、電話の音が暗かったから切った後、す

友人と学び、遊び、とても充実した日々を過ごしました。私の大学生活は友人たちのおかげで過ごせたといっても過言ではありません、本当にありがとうございます。

また、一人暮らしを始めたので今までの実家での暮らしとは一変しました。なにより家事や色々なことをすべて一人で行わなければならないので大変苦労しました。一人でも大変なことを家族全員のことをしている両親はとてもすごいと思います。同時に感謝しました。私がかまえて育ったのも両親のおかげです。ありがとうございます。

ほかにも感謝したい人たちはたくさんいます。お世話になった教授、バイトで出会った人たち、サークルの先輩方……。本当に出会いに恵まれ、出会った人たちに支えられた4年間でした。



自主マスコミ講座祝賀会で。アナウンサー内定者の仲間と一緒に  
(前列左が筆者/2010年12月18日)

ぐ着信がありました。掛けてきたのは父「残念だったね。でも徐々に面接も進むようになってきたじゃないか。次がある。



自宅にて仲間と共に。仲間の実家に宿泊し観光する「仲間の実家巡りの旅」の途中(中央が筆者/2010年11月2日)

たくさんの人に出会い、たくさんの人に助けられました。お世話になったすべての人々に感謝します、ありがとうございます。これからもよろしくお願いたします。

「新たな一歩を！」



まつばら ゆみ  
松原 由実

卒業おめでとう。家族から離れ東京での一人暮らし、学生生活、アルバイトなど、初めての経験ばかりで戸惑ったこともあったでしょう。でも良き師、良き仲間、助けられ乗り切ることができたこと、親としてとてもうれしく思っています。大学生活4年間を素晴らしい仲間と過ごすことができたのは、何にも代えがたい幸運だと思います。厳しい社会情勢ではあるけれど、これまでの多くの出会いに感謝して、新たな一歩をスタートさせてください。

「夢への1歩」



おたいら けんじ  
大平 哲朗

「夢がままに育ったあなたが、「アナウンサーになる。」と言った時は、夢としか考えられませんでした。実現を目指し行動する姿に成長を感じました。大学生活中に将来やりたいことを見つけたあなたは幸せだと思います。大学生の「4年間の自由」が何にでもチャレンジできる状況を作ってくれていたので、卒業にあたり、4年間に知り合った方々のおかげで夢への一歩を踏み出せることに感謝し、将来人の役に立つ人間になつてください。

やれるところまで頑張らなさい。」父はそう言って電話越しに元気づけてくれました。あの言葉がどんなに嬉しかったことか。応援してくれる両親のためにも絶対アナウンサーになるのだと固く決意し、受験を続け、遂に念願叶って地元新潟の放送局から内定をいただくことができました。

内定にたどり着けたのは自主マスの先生方や講座生、サークルやゼミの友人たちからの励ましと、何より私の夢を否定せず応援し続けてくれた両親がいたからだと思っています。この場を借りて感謝を伝えたいです。本当にありがとうございます。春からは社会人としての責任と自覚を持ち、どんな事態にも怖じけず、視聴者に安心感を与えられるようなアナウンサーを目指し日々精進していきます。

# 親子でつづる法政の4年間

HOSEI

2011 March

法政会だより

## 「あしたへの架け橋」



幕 晋一  
(工学部)

法政大学での生活も今年で早4年。いよいよ長きに渡る学生生活も最後の時を迎えようとしています。入学当初は何の目標も掲げず、慣れない都会での生活に悪戦苦闘の日々でしたが、今では生活にも慣れ、将来に対しても正面から向き合えるようになった自分に驚いていません。

特に部活やサークルに打ち込んでいたわけではありませんが、2年生の頃からおよそ3年間お世話になった研究室での日々は、最も濃密なものであったように思えます。知識や技術だけでなく、人

## 「一生の宝物」



佐藤 恵吏  
(経営学部)

花の女子大生生活の大半を、私はアメリカンフットボール部の汗臭い、泥まみれの部室で過ごしました。

勉強ができるわけでもない、スポーツができるわけでもない、佐賀から出てきた田舎娘の私が、学生最後の大学生活で一生に残る何かを手に入れたくて、日本一を目指すアメリカンフットボール部にトレーナーとして入部しました。

朝早くから夜遅くまで行われる練習やミーティング、春と夏に20日間に渡って行われる長い長い合宿。

24時間をつかつかつかつ使い切る選手た

生観をも変えるような素晴らしい体験ばかりでした。これまでは悩みをひとり抱え込む傾向があり、ひとりで解決しようとして模索することも多かったのですが、ここでは常に情報を仲間と共有し、どんな結果も受け入れ提示しなければなりません。

初めはなかなか順応できず、辛く感じることもありましたが、この絶えず明るく、時にとても厳しい今井清博教授率いる研究室で採まれているうちに、常に前向きで自信を持って物事に取り組み、人とのコミュニケーションも自ら進んで行うように心掛けるようになりました。4年の冬には、学会という貴重な場に足を運ぶ機会もあり、とても有意義な時間を過ごせたと思います。

この4年間、お世話になった法政大学の関係者の皆さまと、数々の素晴らしい経験を積む機会を与えてくれた両親に

ちをみて、「少しでも良い状態でグラウンドに送り出さなきゃ。最後の第4Qまで走り切れる身体を作らなきゃ。」4年

な感情が自然に湧き出てきました。3年間、あと一歩の所で手の届かなかった日本一。最後の年は絶対に甲子園球場でビクトリーフラワーを咲かせることができると思っていました。しかし、12月5日、甲子園の土を踏むことなく私のアメリカンフットボール部人生は終わってしまいました。

「一番じゃないと意味がない」と多くの選手は言いましたが、私は部活動を通して多くのことを学び、一生の「宝物」を手に入れることができました。

ポロポロのスウェット、雨の後のグラウンドの水抜き、膝にできたアザ、タッチダウン後のハイタッチ、皆からの「ありがとう」……全部忘れません。

お父さんお母さん、素敵な4年間と素敵な仲間をありがとう。次は私が素敵な時間をプレゼントする番だね！

感謝するとともに、この経験を生かし胸を張って、社会への第一歩を踏み出そうと思えます。



神戸で行われた学会会場にて(右が筆者/2010年12月)

## 「君に贈る言葉」



幕 優子

4年前、希望と期待に輝いていたあなたの横顔を、今でも忘れることができません。あなたから聞く話はいつも新鮮で、驚きに溢れ、今、まるで青春時代を共に過ごしたかのような気持ちです。「明日から海外旅行」と突然知らされたら、夜遅くやっとな繋がつた電話を「実験中」といって慌しく切られたりしたことも、今は良い思い出。

進む道は決して平坦ではないでしょう。どんな時もあなたの支えであった師や友に感謝し、自分を信じて行く道を信じて、誇りを胸に歩んでいってほしい。光射す未来を願って。

## 「頑張ったね。そしてありがとう！」



佐藤 多津子

幼い頃から、水泳やバレーボールの選手として活躍してきたあなたが、突然アメリカンフットボール部のトレーナーをやりたいと話をした時、戸惑いと不安で一杯になりました。伝統あるチームを支えるスタッフの役割を果たせるのか、かえって迷惑を掛けるのでは……。

それがいつしか、試合を観戦し、いろいろ話を聞くにつれ、あなたたちのやっている話の素晴らしさに感動を覚えるようになりまし。4年間の経験は、貴重な人生の「宝物」になることでしょう。

お世話になった皆さまへの感謝の気持ちを忘れずに、精一杯人生を歩んでください。



関東オールスター戦・川崎球場にて(後方中央が筆者/2011年1月8日)

体育会応援フ

「ラグビー部」へ親からのメッセージ



吉岡 浩  
(耕 / 社会学部)

我が家の次男は10年前、桜満開の法政一中に入学、選んだのはラグビー部。伝統と実績を誇る一中高で、今村先生という尊敬できる指導者に最初に出会えたことが何よりでした。痛く、きつい、け

がも、多い格闘競技だからこそ「勇気とプライド」を持って、中学は早慶はじめ伝統校との闘いだ、法政のプライドを決して忘れてはいけない、と教えられました。

3年の春、主将として9年ぶりの関東大会へ。足首のけがで歩行も困難な中、接骨院に通い、何とかグラウンドに立ち、部員全員で勝利を得ました。母の日に約束したプレゼント「お母さんを関東大会に連れて行く」が叶いました。3年間、夏冬春と菅平・石岡などで合宿。太い霜柱の立つ石岡での真つ暗闇の早朝練習は辛いが貴重な経験でした。関東選抜で正月に花園に行き、他校の仲間も増えました。

一高でも、いろいろな経験ができました。長年勝てなかった神奈川の強豪兄弟校法政二高に主将として勝ったこと、ニュージランドの名門、ケルストン校ラグビー部との相互のホームステイ遠征、同校のグラウンド全面を使った力強く奔放なプレーを肌で感じられたのも財産です。3年秋は都代表で姫路国体へ。春から合宿や練習試合でチーム作りを重ね、優勝を狙っていたものの3位。この時に現在各大学で活躍する全国のプレー

ヤーとともに聞えたことは大きな自信になったと思います。

一高ではラグビーだけでなく、大勢の友人と共にさまざまな機会で法政の「進取と自由の精神」を学びました。ちよつとやんちゃだが憎めない、自分の意見をはっきり持った大人っぽいところのある愉快な友人たちと、毎日通った活気ある吉祥寺の街は忘れ難いものです。

大学でも屈指の名門ラグビー部の一員となりました。一中の入学式同様に桜の舞うグラウンドで20数人の同期と緊張して自己紹介をしたのがつい先日のことのようです。全国から素晴らしい素材が集まる大学ラグビー部で不安もあったと思います。しかし彼ららしい地道な努力でチームメイトに信頼されるプレーヤーとな

り、多摩、秩父宮、熊谷、瑞穂、国立と母の日以外にもJ.R戦、リーグ戦、大学選手権とたくさんプレゼントをくれました。最終学年の今年は苦しいシーズンで、さまざまな苦労があったと思います。でも、素晴らしい同期の仲間と共に、ラグビー部で得たものがきつといつかこれからの人生で力になると信じています。これからは後輩たちの応援です。

中高大の10年間、たくさんのご父母の方々とさまざまな交流で、共に喜び、笑い、そして悔しい思いをしたことを、法政ならではの絆、と感じ、法政に通えたことに夫婦共々大感謝です。個人的には、現役プレーヤーとして、この歳になってもレベルは全く異なれど、同じスポーツができる喜びに感謝です。息子は社会人でも強豪チームでラグビーを続けます。また彼ららしいひたむきな努力で自分を鍛え上げ、いつか大きな舞台に立つことを願っています。



中学3年 関東大会にて (3人並んだ中央 / 2003年6月15日)



大学4年 神奈川県ラグビー協会招待試合にて(一番右 / 2010年5月5日)

後援会ホームページのご案内

URL : <http://www.hosei-koenkai.org/>

または、法政大学のホームページを開いていただき、オレンジのインデックスの「保護者の方」をクリックしていただいてもアクセスできます。是非一度ご覧になってみてください。

「携帯メール情報」の配信案内

法政大学後援会は、メールマガジンを発行しています。六大学野球、アメフト甲子園ボウルや箱根駅伝などのスポーツ情報、講演会などイベント情報を提供しています。一人一人の力は小さくても、一致団結して盛り上げて行きましょう。配信ご希望の方は、下記アドレスへ「メールマガジン配信希望」とお書きになり、登録されるメールアドレスをお送りください。

[koenkai-reg@ml.hosei.ac.jp](mailto:koenkai-reg@ml.hosei.ac.jp)